

# 平成25年度 秋田県生涯学習センター運営委員会 会議録

期 日	平成25年12月13日（金）
時 間	午後1時30分～午後3時35分
会 場	生涯学習センター視聴覚室
出席者	運営委員7名 課・センター職員12名
欠席者	委員2名
記録者	センター職員2名

## 1 開会

## 2 所長挨拶

- ・お忙しい中、悪天候の中、御出席いただき感謝します。
- ・日頃より当センターに有益な御助言、御協力を賜り、深謝します。当センターには3つの班がある。美の国アクティブカレッジ等を担当する学習推進班、行動人事業や職員研修等を担当する学習情報班、予算の執行等を担当する総務班の3班である。今年度、当センターの運営に関しては、ここまでは比較的順調に推移してきたと思っている。利用者数や行動人 Web サイトでの紹介者数の目標値もクリアできそうである。マイスター養成講座は由利本荘市で行われ、マスコミにも取り上げられ大きな反響を呼んだ。財政が厳しい中、職員一同知恵を絞って取り組んでいる。本日は、忌憚のない御意見を賜りたい。

## 3 出席者紹介及び資料確認

## 4 委員長及び副委員長の選出

## 5 案件

### (1) 「秋田県生涯学習センターの事業運営の在り方」について

- ・事業全般の概要説明

#### 質疑応答

- 委員 A            利用者層のイメージがとらえづらい。どういった方が利用しているのか。
- 職員①            年代はわからないが、貸し館（外部貸し出し）が 28,000 人、その内生涯学習 18,000 人、企業の方が 14,000 人、その他がセンター事業、相談が 17,900 人、受講者が 4,600 人、展示ホール等で来館者が増えている。
- 委員 A            主催事業として利用者は増えている。生涯学習の観点から利用者層をきいた。
- 委員長            地域講座で館外利用者も入っているという誤解があるのでは。公民館でも施設利用と事業利用を分けている。
- 委員 B            生涯学習センターが、何を課題としているか。特にどこを増やしたいかをはっきりさせると対策も立てやすいのではないか。議論がしやすいデータを出してほしい。

- ・学習推進班が関わる事業についての説明（美の国アクティブカレッジ事業）

#### 質疑応答

- 委員 B            有料講座は、なぜ減ったのか。

- 職員② 去年との比較では、減ってはいるが、その数は下げ止まりである。
- 委員 B なぜ地域キャンパスを無料にするのか。
- 職員② 広く周知させたいことと全体を底上げして裾野を広げたいと考えている。
- 委員 A 地域マイスター講座や移動学習はどこから出発するのか。
- 職員② センターからの出発は、1回だけで、あとはその地域から出発している。
- 委員 A 地域キャンパスは、その地域の人だけが参加しているのか。
- 職員② 全県に広報している。県南の講座に県北の方も参加している。
- 委員長 地域キャンパスを設定する上で、市町村と協働していくということか。
- 職員② 事前に地元の教育委員会から要望を聴いている。無料化によって要望は取り入れやすくなるのではないか。
- 委員長 ここで地域キャンパスを実施してほしいという教育委員会もあるのか。
- 職員② ある。地域と連携しながら実施している。
- 委員 C 去年の話で申し訳ないが、潟上キャンパスでは受講者が少なかった。別の地区の人は参加していない。公民館が動いていないので、全地域に周知されていなかった。
- 委員 A 講座の告知については、工夫はあるのか。
- 職員③ 市町村の広報誌に掲載してもらったり、チラシを作って配布したり過去の受講者にもダイレクトメールを送付している。潟上キャンパスは事前の申込が少なかったので各高齢者大学に送付したが、そこからは受講はなかった。公民館長さんのお話では、普段は無料で実施しているので、1日800円がハードルになっているとのことだった。
- 委員 A マイスターの処遇についてはどうなのか。行動人は紹介されているので、マイスターの紹介、あるいは付加価値を付けてはどうか。
- 職員④ マイスターの特典については、3つ挙げている。まなびサポート秋田への講師登録とあいLOVEあきたの講座の自主企画そして県民総「行動人」自主企画講座への参加の3つである。
- 委員 A 具体的なメリットを挙げてみてはどうか。
- 委員 D 広報の効果とチラシの効果が減った。紙情報を持ちたくないのが、20代、30代の人達だ。フェイスブックで講座案内を始めたら効果があった。実践講座 Vは、広報を目的としたものか。
- 職員⑤ 県の広報広聴課でSNSに対してある程度の知識を持ってもらおうと思って作った。
- 委員 D 講座案内は、SNSだと時間的余裕がある。運営主体が行政だと参加者も安心できる。初対面の人達がすぐにつながるができる。
- 委員 A 生涯学習世代といえ、高齢者のイメージがつよい。SNSでの広報は若い世代を取り込めそう。
- 委員 B 高齢者の相談事業は秋田市しかなかった。ターゲットがいそうな場所へチラシを置くなどの実験も必要ではないか。
- 委員長 センターのホームページが見当たらないような気がする。
- 副所長 センター単独のサーバーはない。

・学習情報班が関わる事業についての説明（生涯学習・社会教育関係職員研修、調査研究、生涯学習支援システム、IT講習、県民総「行動人」推進事業自主企画講座支援）

質疑応答

- 委員 B 3点ある。職員研修事業に関して参加人数が少ない対処方法はあるのか。

調査研究事業については、調査結果は公表しているのか。行動人については、SNSやメール等で紹介してはどうか。

職員⑥ 職員研修事業に関しては、公民館職員の参加を得るためにセンター以外の会場に出向いて行う場合もある。公民館職員は臨時職員も多く、なかなか研修に参加しづらい状況になっている。調査研究結果は、市町村教育委員会や公民館へも届けている。運営委員の方々にもお届けしたい。

職員⑤ 基礎講座は初任者向け、実践講座は3年以上社会教育に携わっている職員を対象としている。参加を促すために、公民館職員の方々に個々に電話したこともある。

委員 B 職員研修は、公民館を会場にしてはどうか。

職員⑤ 公民館等でも実施している。調査研究に関しては、調査結果をホームページにも載せている。

職員⑦ 行動人のホームページの閲覧者数は減っている。今年度当初は、ゼロ予算で取材や記事をアップしていた。文部科学省からの予算がついたので、かなり充実した広報ができそうである。

委員 A 行動人同士がつながるような場面を設定できればよいのではないか。実際に行動人が会えるような場の提供も必要ではないか。

委員長 行動人のもとであらゆる展開が可能になるのでは。例えると富士山の頂上が「行動人」で登山口をいっぱい設定するのが理想的だ。

委員 D 市の窓口にもよく相談に来る。例えば「シニアの活躍のため講師になるような人はいないか」などの相談があった。自分の知識を外に伝えるための講座があってもいいのではないか。

- ・総務班の関わる事業についての説明(施設利用状況等)
- ・来年度事業について

## (2) 意見交換

委員 E 学習相談の中身を教えてほしい。

職員⑥ 美の国アクティブカレッジへの問い合わせや申し込み、市町村への問い合わせ、講師の相談、行動人との相談等である。

委員 E 相談件数が増えている理由は。

職員⑥ 内訳等しっかり数字を取り始めたことが結果につながったと思っている。

副委員長 行動人については、奨励員協議会として次年度具体的な数値目標を立てたい。

委員長 今回は議論する時間が多く取られてよかった。

## 6 その他

- ・諸連絡

## 7 閉会

- ・所長謝辞

長時間にわたり貴重な御意見ありがとうございました。講座の集客や職員研修の参加者増を目指す上で、広報がとても大事であるということが改めてよくわかった。行動人の増加や活用が今後の課題であり、行動人のネットワーク作りが、当センターの使命と考えている。本日出された御意見、御提言を今後のセンター運営に生かしていきたい。

以上